

第4回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会育み部会議事録

- ◆開催日時 平成26年7月11日（金） 17:30～19:00
- ◆開催場所 第2委員会室
- ◆出席部会員 部会長 安宅 錦也
副部会長 川村 正勝
部会員 仲川 弘誓
合田 美津子
佐藤 文子
磯田 大治
佐藤 史彦（庁内検討委員会 部会長）
【教育部次長】
千葉 浩樹（庁内検討委員会 副部会長）
【教育部社会教育G総括主幹】
- ◆欠席部会員
- ◆事務局 沼田総務部企画調整G総括主幹
上野総務部企画調整G企画主幹
- ◆議題 「第5章 豊かな個性と人間性を育むまち」について

〈部会長〉

第4回育み部会を始めます。本日は3つの資料をもとに意見交流をしていきたいと思ひます。進め方について何かありましたらお願いしたいと思ひます。

〈事務局〉

今日お持ちいただいた資料ですが、体系図と見直し調書、第2期基本計画のコピー、この3つの資料を使って体系図に入っていくたいと思ひます。

まず見ていただきたいのは見直し調書ですが、これを中心に進めていきますが、左端の「豊かな個性と人間性を育む町」これが5章になります。

この部分については変更できないので、皆さんにこれから議論していただくのは、「施策」、「施策の基本的な方向」、「主要な施策」について第3期の基本案が適正なのか議論していただきます。

検討の仕方ですが、最初に第5章ではどんなことを言っているのかをこちらで説明します。

基本的には、行政がどのような考え方で物事を進めようとしているのかを説明させていただいて、本当にそれでいいのかを議論していただきます。

あまり体系図にこだわらず、体系図で言おうとしていること、基本計画で行おうとしていることについての議論をしていただきたいと思います。

体系図の見方ですが、市民検討委員会では黒い線から左を提言として出させていただきます。黒い線の右の「主要な施策の考え方」、「主な事務事業」については、提言から除外していただいて結構です。

それは中を見ないで下さいということではなく、文言についての細かい議論は必要ないということなので、ここはしっかり見ていただき、何をやろうとしているのかを踏まえた上で議論をしていただければと思っています。

〈事務局〉

第5章は、生涯学習、学校教育、文化、スポーツの4つの節に分かれており、それぞれ「生涯に渡って学び続けられる社会を作る」、「学校、家庭、地域と連携し心豊かな人間性を育む」、「市民の個性ある文化活動と文化を育む」、「スポーツを通じて健康で活力ある生活を目指す」、この4つで構成されています。

それぞれの節ごとに、「施策」、「基本的な方向」、「主要な施策」として枝分かれしてぶら下がっています。

例えば第1節については、「施策」の一つ目として、「市民の主体的な学習の推進」があり、これを実現するための「主要な施策」として、①「ライフステージに対応した多様な学習機会の充実」と②「主体的な生涯学習活動の充実」の2つがあります。

これらについては、線の右側の部分の「基本的な考え方」に基づき構成されており、体系図では・で表されています。

その右に「主な事務事業」がありますが、こちらは具体的に市がどのような事業をしているかということで、斜線を引いているところもありますが、斜線だからといって何もしていないわけではありません。

理念的なものであったり、表現できないものや取り組みもありますので、必要に応じて説明をしていきます。

基本的には、各節ともにこのような構成となっておりますのでご確認をいただければと思います。

〈事務局〉

第5章は、大きく4つに分けており、まず最初に生涯学習について議論していきます。

5章のタイトルは「豊かな個性と人間性を育むまち」となっており、基本構想で謳っていることです。

おおよそ50年後の未来には、これからの登別を担っていく子供たちの可能性を伸ばす環境が整ったまちになっている、ということを行っています。

例えば、いろいろな生涯学習の施設が整備され学びの環境が整った中で、小中学校では一人ひとりの個性を大切にしたい楽しい授業が行われ、高齢者とのふれあいの時間

もあるといったことや、スポーツ施設でも、いろいろなスポーツ指導員の指導を受けながらお年寄りも子どもも様々なスポーツを楽しんでいる、などという未来像です。

学習、文化、教育、スポーツ、この4つの分野で私たちが理想と思う姿を基本構想の中では描いています。

生涯学習の推進という部分では2つが考えられており、①「ライフステージに対応した多様な学習機会の充実」のところでは、市民の生涯学習の動向を把握するのが必要で、家庭や学校で連携・融合を図って学習機会を充実させるということ言っており、併せて、生涯学習の成果を発表して互いに学び続けられるよう努めます、ということを行っています。

大きな方向性としてこのように言っているのですが、具体的に何をしているのかというのが、「家庭教育学級」であるとか「市民マイプラン講座」や「ときめき大学」です。

まず、これについてこういうことをしている、という話をしてもらっていいですか。

〈市庁内部会副部長〉

「家庭教育学級」というのは、基本的には学校や幼稚園に通っているお子さんの保護者の方などに、各学校や幼稚園でPTAのような形で集まっていただいて、自分たちはこういうことを学びたいとか、こういうところに行って工場見学をしたいとか、そういう企画を練っていただきます。

それについて父兄の方にいろいろなことを学ぶ場を作っていただいて、学んでもらうというようなものです。

「市民マイプラン講座」は、例えば小さなサークルや団体が講師を呼んでいろいろな活動をしたいというときに、なかなか講師を呼ぶお金を集めることができないので5千円を補助するという内容の事業です。

「登別ときめき大学」は、以前は「ときめき大学」と「婦人短期大学」の二つに分かれていましたが、数年前からひとつにまとめ、「登別ときめき大学」という名前にしています。

これも基礎講座といって、市が企画した講座や、連携講座といいまして、教育委員会以外のところが企画した講習会や講座などを受講すると単位がもらえる、という仕組みにしている様々な方が受講しています。

登録するのに年間一人あたり千円かかっていますが、いろいろな機会づくりをしていると思います。

〈事務局〉

生涯学習というのは、普段の生活の中で出てくる言葉ではないので、何を言っているのかなという部分があると思います。

生涯学習は、子どもからお年寄りまでが、いつでもどこでも自分の興味のあることを学んだりして自分の知識や人生経験を豊かにし、より豊かな人生を送ってもらいた

いという概念です。

生涯学習という言葉で何をイメージしますか？

〈部会員〉

正確には言えませんが、雰囲気はなんとなく分かります。

〈部会員〉

基本的に学校教育だけでは人は成長しませんし、学校教育の終わりが人生の学びの終わりではなくて、人が一生涯を生きていくときに学びもずっと続くのだ、ということが生涯学習の基本だと思います。

基本的に自立した人間はきちんとした人生を送れるという意味でも、ベースとなる学ぶ環境というのは大事ではないかと思います。そのために私はずっと生涯学習に取り組んできており、大事だと思っています。

〈事務局〉

行政としても、そういう学べる場をいろいろな機会を通じて市民と一緒に作ったり提供していった方が良いという認識で皆さんいいでしょうか。

行政が今進めている、いろいろな年代層に対応した学習機会とは何かというと、先ほどの「家庭教育学級」、「マイプラン講座」、「ときめき大学」になるということだと思います。

〈市庁内部会副部長〉

今までは老人大学のような高齢者向けの講義をしていましたが、今は年齢制限も無くし、若い人も入れるようにしています。

今後は、もう少しいろいろな世代や興味のある人に来ていただけるようなプログラムを考えています。

直近では、金融系の方に来ていただいて貯金はこうしたらいい、こういうライフプランがあればいいというような講義ですとか、南極に行った先生に来ていただいて話をしてもらったり、というようにいろいろなパターンで実施するようにしています。

〈事務局〉

マイプラン講座ではどんなことをしていますか。

〈市庁内部会副部長〉

「マイプラン講座」は、歴史があって昔から5千円なんですけど、今実際に活躍している団体はプラタナスの会、町内会の婦人部、あとは本当に小さな5～6人の手芸のサークルなどですね。

〈部会員〉

年間予算はいくらですか。

〈市庁内部会副部長〉

予算は20万円程度です。

〈部会員〉

40回分ですね。

〈市庁内部会副部長〉

実際にはそこまで来ていません。

〈部会員〉

申請してから講座を開くまでの手続きを教えてください。

〈市庁内部会副部長〉

手続きは、複雑にしています。あまり複雑だと小さな団体さんが困ってしまうので、申請があればすぐ対応できる仕組みにしています。

〈事務局〉

「家庭教育学級」の代表的なものは何ですか。

〈市庁内部会副部長〉

「家庭教育学級」は、一番多いのがPTAで、皆さんが集まって千歳市の工場見学をしたりとか、そのほかでは料理教室や陶芸体験なども企画しています。

〈事務局〉

他にもっと言ったほうがいいことはありますか。

〈市庁内部会副部長〉

例えば、行政がすべて仕切って企画してではなく、自発的に市民が企画して運営もある程度自分たちで行う。

つまり、自立した市民たちが力をつけていくための施策を組んでいました。

〈事務局〉

ここでは、市民が自主的に生涯学習活動を行えるよう促進したいと言っています。

〈部会員〉

このような自主的に学ぶための企画は、すべて市民に自主運営させることが肝要です。

〈事務局〉

そういう意識を持っていない団体もたくさんあって、そういうところから行政に話が来た場合に、それでは力がつかないから自分でやりなさいと門前払いはできません。

〈部会員〉

今の市民はみんな自立していて、大抵のことはできます。

〈市庁内部会副部長〉

「ときめき大学」には、ときめき大学運営委員会という組織がありまして、その方々に集まってもらって、どういうことをするのかを話し合っています。

最終的には、その方々が「ときめき大学」を自主運営することを目標にして進めています。なかなかそこまでのステップに行けないでいます。

〈部会員〉

去年ドイツに行ったときに日本と違うなと思ったのが、ヨーロッパでは行政が直接手掛けるということは考えられないそうです。

市民に何らかの形で支援するだけで、直接手を掛けることはないんだそうです。

〈事務局〉

登別市に限らず他の行政もそうだと思いますが、行政サービスとして行っていたものも、今は行政としてではなく、ある程度の競争性を保って民間の中でできることは民間に任せていくという流れになっています。

〈部会員〉

「マイプラン」や「家庭教育学級」の中で実際に接して思うのは、市民力を引き出すには、市民がもっと自立して市のため、地域のために貢献できるような仕組みにしていくのが理想だと思います。

〈事務局〉

のぼりんでも、文化協会と組んで文化講座をやっていますが、市からいろいろ提供して講師を呼んでいます。

習った人は自らグループを作って自分たちで技術を高め、その技術をもとに今度は自分たちで誰かに教えていくという考えを基にしていますが、これは考え方としてどうでしょうか。

基本計画として書くには、どう表現すればいいでしょうか。

〈市庁内部会部会長〉

事務事業というのはどんどん変わっていくものだと思います。

これはどういう事業で、今後どうするかという議論は非常に大事なことでありますが、今の段階ではあまりこだわらなくてもいいと思います。

時代が変われば求められるものも必要なものも変わってきますし、同じ名前でも中身が変わっているというものもあると思います。

ここにある事業だけではなく、例えばこういう事業を持ってきたいという話をして構わないと思いますので、「施策の考え方」や「主要な施策」の中で、こんなことも考えられる、などと言っていただけの方が我々としては有難いです。

ちなみに、①の「ライフステージに対応した多様な学習機会の充実」には3つあり、「主要な施策の考え方」には、「市民の生涯学習の動向の把握に努めます」などがあります。

そこに、「通信教育や映像を活用した学習を進めます」という文言があったのですが、それは担当から、今は通信教育の時代ではないのではないかと、という話があり省いたり、他にも文言を少し変えたりしています。

〈事務局〉

②の「主体的な生涯学習活動の充実」では、「ボランティア活動を促進するための取り組みを進めます」、「多様で創意あふれる生涯学習活動の充実を図ります」、「市民が自発的に継続的に生涯学習を行えるよう情報の提供を進めます」という3つの項目がありますが、生涯学習活動を充実させるには、この3つ以外にどんな考えが必要なのでしょうか。

〈部会員〉

最初の①「ライフステージに対応した多様な学習機会の充実」は、どちらかというところいろいろなものを提示して機会を与え、その中から自分の興味のあるものを見つけてもらう、というのが「ときめき大学」。

もし何かに興味を持ったら、それを主体的に充実させられるような環境を作る、というのが②の「主体的な生涯学習活動の充実」ですね。

「ときめき大学」でいえば、大学院のようなものを設置して、特化した部分をさらに詳しく学びたいとなると、3本の柱では少し足りない気がします。

施策としての書き方はこれで十分ですが、対応の仕方としては足りない部分がありますね。

〈部会員〉

第2期基本計画策定のときも、婦人大学創立のときもそうでしたが、ただ研修して

終わりだとしたら自己啓発にはなりません。

そこで満足する人もいますが、伸びる人はそんなものでは満足しませんので、本当に伸びる素地を次のステップに上げていくような施策が必要です。

〈事務局〉

計画の中では、そういう高みに上げるようなものが必要ということですか。

〈部会員〉

今までは、ニーズに合うような魅力的な計画、施策、事業を行う、という考え方が足りなかったと思います。

行政が最後まで行うべきだとは言いませんが、いくつかのステップを立て、もっとステップアップしたいという人たちに教師やリーダーになってもらう必要があると思います。

〈市庁内部会副部長〉

やろうとしていることの一つは知の循環といいまして、こういうところで学んだ人たちが徐々にグレードを上げていき、次の世代に教えるというサイクルを作るという考え方です。

「ときめき大学」でも、単位を貯める仕組みにしており、300単位で学士なれるのですが、そういう方々に講師として活躍してもらおうと思っています。

〈部会員〉

目標がないと向上心も生まれてこないなので、その向上心をどのようにして引き出すかがポイントになると思います。

〈事務局〉

役所は基本計画の中で掲げたものに基づいて活動していきます。

主体的な生涯学習活動を充実させるために、計画の中にどのようなものを盛り込むべきでしょうか。

〈部会員〉

自立した市民を作っていくための環境整備と、条件整備などが絶対条件として必要です。

〈事務局〉

計画全体を通して人材育成が重要だという意見だと思いますが、この体系図は細分化してしまっているので、ひとつの項目に人材育成を入れるとすべての項目に入れなければならないようになります。

基本計画では、市民が主体的に生涯学習活動に取り組むために、他に何を言えばいいでしょうか。

〈部会員〉

学ぶための条件だけは行政が作る必要があると思います。

事業によって違いますが、すべてを行政に依存するのではなく、役割を分けるという方法もいいのではないかと思います。

例えば、行政が鬼なびとと連携して仲間を必要としている活動団体や、人材のデータを作るなど、使える情報を提供をしてもらえると役立つと思いますし、市民ニーズに合った施策が必要ではないかと思います。

〈事務局〉

今、生涯学習活動の主たる担い手はどの年代になるのでしょうか。

〈部会員〉

やはり、子育てが終わったり退職したりして時間が少しできた世代です。

〈部会員〉

今は共働きが普通の時代ですから若い人の力は見込みにくくなるのでは。

〈事務局〉

退職して生涯学習の担い手となる人がこれからどんどん増えていく、そのときに3期の計画の中で一般的な話をするだけでいいのか、それとも時代の流れに着目してもっと強い書きぶりで言うべきなのか、ということも含めてどうでしょうか。

例えば、退職した人が手軽に何かを始めてみて、やってみたら面白かったので興味を持つという場は必要ですね。

〈部会員〉

ボランティアの登録制度というのはどうでしょう。

〈部会員〉

過去に、ある団体がスポーツ指導者のデータベースを作ろうとして公募までしましたが、ほとんど反応がなかったですね。

〈部会員〉

ボランティアというのは市というより社会福祉協議会という感じがしますが、市との連携はありますか。

〈事務局〉

あります。社会福祉協議会にも市から助成金などを出していますし、ボランティアの担い手はたくさんあったほうがいいと思いますが、ボランティアは生涯学習活動なのでしょうか。

〈部会員〉

そのように考えることもできます。

〈部会員〉

今いろいろな意見を聞いた中で、この施策の基本的な方向性を高めるために、市として何ができるかを考えたときに、様々な団体などを統括するための生涯学習センターのようなものをひとつ置いて、団体を取りまとめるための組織があってもいいと思います。

〈部会員〉

少し大きすぎるのかもしれませんが。

〈部会員〉

漠然としていますが、生涯学習のイメージとしては、学校教育ではなく学校を卒業した人が一生涯勉強していく環境なのかなと思います。生涯学習というのは具体的にどういうものなのでしょうか。

〈部会員〉

生涯学習の行きつく先で何をするのかというところが明確でなければならないと思います。

基本的には、自立した市民を作っていくことが地域力を上げて行くことになると思いますが、その大前提の中で生涯学習とはどういう目標を持ってきたのでしょうか。

大きな講座はありますが、地域を支えるのは人ですから人間力を上げていくためには、そういう自立した仕組がベースとなるので、そこへシフトさせたいという理念をきちんと立ててほしいと思いますし、それは絶対条件ですね。

〈部会員〉

私は自立だとは思いません。自分が生きることですから自分で生きる楽しさを見出してもらいたい。

今は高齢化時代なので、定年になっても20年以上元気な人がたくさんいますし、これからは20年間何のために、何を目標に生きていくのか、それを見つけてもらうのが生涯学習だと思いますので、定年から何かを見つけて、そのことに対してス

テップアップしてもらいたいですね。

見つけるような手助けをして、興味を持ったらステップアップする環境を作っておけると、充実して生きていけるのではないのでしょうか。

生きる目的さえ持っていただければ、それが生涯学習だと思うので、そのために生涯学習が必要な時期に来ているのかなという気がします。

〈部会員〉

生涯学習センターというのは、お金がないからできないということになると思いますが、今ある条件の中で可能だとすれば、システムを統合させたり、「おにスポ」や「のぼりん」もあるので、そこに付加価値を付けて明確な目的を立て、いろいろな人が利用できるようなものを作るとか、方法はいろいろあると思います。

皆さんやる気もあるわけですし、みんなで作り上げて誰かにお任せではなく、市民総意で、みんなで何とかしようよという空気を醸成して、地域の様々なものを統合させながら作ることにはできないかと。

その組織ができれば、ばらばらに動いてきた市民力をまとめることができますし、そういうのもいろいろ組み立ててみて、今日なら手伝えるよ、この事業ならやってみよう、そういう人たちもすくい上げることができれば、これは面白いのもっとやってみようという方向に行くかもしれません。

〈事務局〉

生涯学習センターというのも、役所の組織では建物だけをセンターというわけではないので、そういう機能を持った組織もセンターという位置づけができますが、それにはどのような機能が必要なのでしょう。

市民に生涯学習を勧め、高める際にどのような機能を役所が提供すれば市民の生涯学習が高まるのか、また主体的に取り組もうと思ってもらえるのかというのは一度話をしなければならぬと思います。

生涯学習センターの設置に努めますというのは、基本構想でも同じようなことを書いてますから。

〈部会員〉

まず情報が必要で、人が集まったらそれをデータ化するようなシステムだと思います。

〈事務局〉

データも、今まで役所で何度かデータを作っていますが、意外と使われていません。

〈部会員〉

気概を持って使える人が正直言って少なすぎますね。

最初の手掛かりは、ある程度のできる人が仲介をして、あとはその人たちに慕う人たちがなんとかぶら下がってくるような仕組みが出来上がれば年代が変わっていきますよね。そのときにどうするか。

〈部会員〉

情報という言葉がよく出ますが、なぜ情報が必要なのかというところから話さない
と議論が成り立たないと思います。

欲しい情報というのは人によっても目的によっても違いますから、情報発信といっ
ても限界があります。

欲しい人が、何が欲しいのかをはっきりさせなければいけませんし、そこから始め
ていかないと無駄な情報発信になってしまいますよね。

情報を発信するけれど使う人がいない、ということになります。

何の情報を欲しがっているのか、ということをいろいろなところから聴いて、どこ
に情報があるのか、そういう情報にどういうものがあるのかを分類していくことも大
事なのかなと思います。

〈部会員〉

限られた条件の中でやるとすれば、そうですね。

〈部会員〉

市民同士の繋がりが薄くなっていますから、もう少し人がうまくかみ合うような場
面があってもいいかなと思います。

〈部会員〉

充実という言葉だけで終わらせるのは難しいですよ。どうにでも取れますし、あ
まりにも抽象的です。

〈部会員〉

ある程度、どういう人たちをターゲットにするか、それを絞り込んでもいいと思
います。

第2の人生を歩いてきた人を対象にして、コミュニケーションできるような、そう
いう場を作って、そこでいろいろ話してもらい、対話をさせる中で出てきたものをま
た次のところというように。

だから町内会でもそういうところを利用して、そういう人たちを出してくださいと。

その中で、私はこういうことをやりたい、そういうものが芽生えてくれば素晴らしい
と思いますし、やはりある程度絞ったほうが具体的なものとして出てくるのではない
でしょうか。

〈部会員〉

分類すれば、趣味も生涯学習になりますよね。音楽も映画鑑賞も。

〈事務局〉

きっかけ作りと、やることでどれだけ楽しいのかということ、大きな目標にするんですね。

主要な施策の部分に関しては、今ご意見をいただいたことから、大きくは外れてはいないと思います。

〈事務局〉

大体いいのではないかとということですね。

〈部会員〉

具体的な主要な施策の部分はこれからということですね。

〈事務局〉

「主要な施策」としてはこの2本ということで、「主要な施策の考え方」は①「ライフステージ・・・」と②「主体的な生涯学習活動の充実」の、右に書いてあるような考え方でいいのではないかとということ、今日はとりあえずよろしいですか。

〈部会員〉

今のは1節の1の話ですね。私はこれでいいと思います。

〈部会員〉

これは絶対必要な事項だから何も問題ないと。政策も施策も問題ないと思います。

〈事務局〉

今後の展開ですが、庁内部会が開かれることがありましたら、市民部会で議論した内容等について話をします。

その結果、行政の方である程度作り終えたら、数か月先になるとは思いますが、その状態の案をまた皆さんにお示しして話をすることになると思います。

今はこのような感じで話をさせていただいて、足りるところ、足りないところ、盛り込むべき考えについて、我々はこういう捉え方をしたのでこういうことをやるべきだ、というようなことを議事録から抜粋して、我々の方で体系図の他に提言書としてまとめる予定です。

次のテーマは生涯学習施設ですが、その前に生涯学習施設の定義をしておきたいので説明していただいでよろしいですか。

〈市庁内部会副部長〉

登別市の行政上の分類では社会教育施設というものがありまして、それは教育委員会・社会教育グループが所管している施設で、例えば、市民会館、鷺別公民館、青少年会館などがあり、そういうものを社会教育施設と言っています。

ここでいう生涯学習施設とは何なんだろうと考えると、行政の施設はほとんど入ってしまうのではないかと思います。

〈事務局〉

社会教育施設と言われる施設に何がプラスされるのですか。

〈部会員〉

市民活動センターも生涯学習との連携だとすれば、生涯学習施設と言えるでしょうし、この会議のイメージが大きな生涯学習であるとするならば、市役所も生涯学習施設と言ってしまうかもしれないと思います。

〈事務局〉

法律や条例の中で生涯学習施設という規定はないのですね。

〈部会員〉

社会教育施設の他にどんなくくりがあるのですか。

〈部会員〉

社会教育施設以外の施設にはどんなものがあるのでしょうか。

〈部会員〉

消防庁舎や市役所も社会教育施設ではないと思います。

〈部会員〉

今のくくりで考えると、のぼりんも社会教育施設になりませんか。

〈市庁内部会副部長〉

社会教育施設の一覧があるのですが、そこには入っていません。

〈事務局〉

登別の場合は、所管している部署によって決まるのでしょうか。

例えば、のぼりんが社会教育グループの所管になれば、社会教育施設になるのですね。

〈市庁内部会部会長〉

生涯学習はあらゆる機会、あらゆる場所でとなりますから、場所を定義するのは難しいのかもしれませんが。

〈事務局〉

次回以降はハードの話ですから、より現実的な話になると思います。

どこをバリアフリーにするのか、どういう考えなのかということ具体的に話し合えると思います。

今回は、7月22日（火）17時30分からとなっています。場所は今回と同じです。

〈部会長〉

今回は1-1-2「まちづくり活動の推進」から始めますのでよろしくお願いします。